

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成23年6月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要

⇨ 前月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は3から5に増加。「減少した」業種は7から4に減少。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は7から11に増加。「減少した」業種は14から11に減少。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は2から3に増加。「悪化した」業種は23から11に減少。

⇨ 前年同月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は3から4に増加。「減少した」業種は11から8に減少。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は2から4に増加。「減少した」業種は19から20に増加。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は2のまま変化なし。「悪化した」業種は31から25に減少。

製造業

■豆腐製造

【県内全域】

夏期に豆腐の需要は伸びるが、揚物類の売上が低下するので、どのように対処するかが課題である。マスコミに豆腐を取り上げても、機会が増えたと感じている。対応を若手後継者にしてもらうことにより、業界全体の底上げを期待している。

■めん類製造

【県内全域】

6月20日、主原料の小麦粉の価格が予定通り大幅に値上された。一方、製品価格改定は困難な状況にあるが、それぞれの組合員が適正な販売価格維持に努力している。8月予定の東日本学校給食麺講演会千葉県大会の準備が始まっている。県教育委、(財)千葉県学校給食会、千葉県学校栄養士会への後援申請が承認された。

■製材

【県内全域】

大震災の前の状況に戻りつつある。業界動向は、省エネ・節電の技術が建材メーカーで開発されている。

■印刷

【県内全域】

県内企業6月の売上高は、東日本大震災後の自粛・節約の影響、官公庁の予算の縮減による発注点

数や発注数量の減少を受け、5月の低調な業況をそのまま受けた形で全般的に振るいません。実稼働日数を考えると5月より悪化と言えなくもない状況です。この需給ギャップの影響もあり、安値攻勢からデフレ状態が継続しています。官・民需共に動きが大変鈍く夏場の需要が気掛かりです。

被災地周辺の製紙工場・製品倉庫に甚大な被害が発生し、供給不足と在庫品の払底により印刷用紙によっては未だに不足品があります。印刷インキも原料製造工場が被災し復興に来年6月迄を要する事で、海外調達に切替えた経費増等から、1kg当り150〜180円値上がりしました。7月中旬から8月にかけて石油系の薬品等の値上げ通知も各社に届き始めたようです。これからコストアップへの対応が今後の経営の大きな課題です。

■生コン製造

【県内全域】

少しずつ物件が見えてきており、少し動きが明るい方向に。具体的案件が出てきた。下期に入りさらに動きが活発になる見通し。

■電気鍍金業

【県内全域】

東日本大震災後は東北地方からの発注が全くなり、景況は悪

化してきているが、6月中旬より徐々にあるが改善の兆しが現れてきている。震災特需を受けている企業もあるが、全般的には景況は悪化している。

【鉄工業】

3月の震災以降、組合員各社の景況感は依然として低空飛行中。一向に進展が見えてこない原発の後始末と、国内全域に及びつつある言わば節電ドミノが何とも重苦しい。

【機械部品製造】

【野田】

節電対策対応、機器、関係部品等の受注及び建築関連機材加工等が増えている。停電回帰のため、生産タイム調整、ライン輪番調整、土日振替等の実施をしている。

【土砂採取業】

【県内全域】

公共事業の投資がなく、骨材需要が減少し各企業は事業運営に苦慮している。東日本大震災の関係で、今後復興資源（山砂等）の要請が出てくれば協力していきたい。

【非製造業】

【食肉卸売】

【千葉市他】

家畜頭数の減少が続き、収益が悪化している。業界全体としても、依然厳しい経営環境にある。

【建築材料卸売】

【県内全域】

4月～6月前年より出荷は増加しているが、前年が悪すぎたためで前々年と同水準。地震の影響で地盤改良効果の認識が深まったこと、戸建住宅の危惧、高層マンションへの不安などセメント需要にプラスマイナス両面あり見通しがつかない状況。

【自動車解体業】

【県内全域】

新車製造の回復に一定の目処がついたことで、秋以降の業況回復の期待感。

【乾物卸売】

【県内全域】

中元期を迎えているが、出足は鈍い。今年度第1回海苔交換会を実施。震災の影響で生産量が3割減少したこともあり、出品数は少なかつたが、成約率は高かつた。

【卸売】

【茂原市】

何故か消費者の消費ムードが上昇せず、店内各店舗に活気がない。

【小売】

【柏市】

低価格商品を中心に、震災前の景況に戻りつつあるが、節電対策によるショッピングイメージの低下、計画停電の可能性が消費に影響を落とすのが心配だ。

【電気機器小売】

【県内全域】

6月上旬までは、エコポイントの影響でエアコン、TVが売れて

いた。中旬以降はバッテリーと止まる。近年になくダウンする模様。

【青果小売】

【千葉市】

電力使用制限令の影響がどうであるか注目している。売上は依然、前年を取り戻せず。

【中古車仕入・販売】

【県内全域】

震災後、人気車種の高騰、タマ不足が一層加速。中古車輸出は前年同期比は、前年同月比に回復。

【小売】

【野田市】

消費が上向いてこない。結果、売上を取り辛い状況が続いている。

【印鑑小売】

【県内全域】

東日本大震災・原発事故以来、栄養の売上が低迷。店舗の売上は昨年と同様に戻った。

【小売・サービス】

【柏市】

震災後、やっと売上が前年並みになりつつあるが、業種によっては震災で工場が被災し、商品が品薄により入荷せず大幅減のままの業種も多数あり。たばこは入荷が30%程度。リフォーム業も商品の入荷が大幅に遅れているとのこと。来街者数は回復したが気温の上昇に伴い、日中の人出が少ない。

【小売・サービス】

【銚子市】

相変わらず悪いまま。

【害虫防除】

【県内全域】

景気はいまだに悪化状況。蜂駆除依頼減少している。

【旅館業】

【鴨川市】

観光業界全国ワーストワンです。

【遊覧船】

【鴨川市】

依然として、観光業界は厳しい状況が続いております。特に海岸付近の風景と船を目玉にしていますが、学生達が殆ど来ません。

【一般廃棄物処理】

【千葉】

毎年6月はあまり動きのない月になりますが、今年には地デジの影響により、テレビの排出量が多く、景況は好転の結果となりました。（テレビの台数だけでいえば、前年同月の倍の量が出ました。）

【ソフトウエア業】

【県内全域】

売上高前月比増加となっているが、震災の影響を受けた5月との比較であり、前年同月比は減少。収益状況は依然悪化である。企業間格差が出てきているように思える。

【建設】

【県内全域】

当連合会加入組合員の受注額は前月比微減であったが、各単協の声としては、仕事がないと嘆いている。

【貨物運送業】

【野田市】

依然厳しい景況状況にある。